

地方都市議会運営調査 報告書

委員会	議会運営委員会		
調査日	10月20日(木)	調査場所	北海道 千歳市
委員	委員長 新井 ひでお 委員 鹿浜 昭 委員 岡安 たかし 委員 鈴木 あきら 議長 工藤 哲也	副委員長 長澤 こうすけ 委員 くじらい 実 委員 ぬかが 和子 委員 長谷川 たかこ 副議長 たがた 直昭	副委員長 くぼた 美 幸 委員 長井 まさのり 委員 はたの 昭彦

調査項目	議会改革の取り組みについて
調査の目的	千歳市議会における議会改革の取り組みを研究し、足立区議会における議会改革の参考とする。
調査内容	<p>千歳市議会では、民意の変化により、議員が大幅に改選した場合、条例よりも計画（プラン）の方がより早く民意を取り入れることができると考え、議会基本条例を定めず、「議会改革推進プラン」に基づき、議会改革を進めている。</p> <p>また、この議会改革推進プランの取り組みの一環として、議会内の議論にとどまらず、広く市民の声を聴くことを目的とした「市民の声を聴く会」を継続的に開催している。</p> <p>さらに、若年層に議会を理解してもらい、身近に感じてもらうことで政治・社会への参加意識を醸成することを目的に「交流学习会」も実施している。</p> <p>このような千歳市議会の議会改革の取り組みを調査した。</p>
主な質疑	<p>(問) 市民の声を聴く会を報告会形式からグループ形式に変えたきっかけは何か。</p> <p>(答) 報告会形式で行っていた時は、1対1の対面で議論するため、誹謗・中傷や悪意のある意見が出るが多かった。その状況を改善するため、行政で行っていた市民の意見を取り入れるためのワークショップ形式を参考にした。</p> <p>(問) 市民の声を聴く会の参加者の年齢構成はどのようになっているか。</p> <p>(答) 報告会方式で行った第1回から第4回は高齢の方が多かったが、グループ形式にしてからは、満遍なく様々な世代が参加するようになった。</p> <p>(問) 市民の声を聴く会を実施した後に、結果報告などは行っているのか。</p> <p>(答) 今後、市民への報告会のようなものを検討している。なお、市民の声を聴く会の様子は、ホームページや議会だよりへ掲載したほか、多くの市民に見ていただけるよう市役所ロビーに成果物を掲示した。</p> <p>(問) 市民の声を聴く会や交流学习会を実施するにあたって、議員や関係者、関係団体から実施に反対する意見等はなかったか。</p> <p>(答) これらの取り組みは、議会運営委員会が中心となって行っているため、議員間・会派間での軋轢等はない。交流学习会は、子どもたちへの主権者教育の機会にもなるため、教育委員会や各学校等も開催にあたっては協力的である。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>議会改革推進プランに基づき、市民を巻き込む事業を展開し、市民との対話・意見を聴く機会や市内中学生と議員が交流する機会などを積極的に設けようとする取り組みは参考になるものであった。</p> <p>議会として住民の声を聴くということは非常に重要なことであるため、伺った取り組み内容について、今後の参考にして参りたい。</p>

地方都市議会運営調査 報告書

委員会	議会運営委員会		
調査日	10月21日(金)	調査場所	北海道 登別市
委員	委員長 新井 ひでお 委員 鹿浜 昭 委員 岡安 たかし 委員 鈴木 あきら 議長 工藤 哲也	副委員長 長澤 こうすけ 委員 くじらい 実 委員 ぬかが 和子 委員 長谷川 たかこ 副議長 たがた 直昭	副委員長 くぼた 美幸 委員 長井 まさのり 委員 はたの 昭彦

調査項目	議会改革の取り組みについて
調査の目的	登別市議会における議会改革の取り組みを研究し、足立区議会における議会改革の参考とする。
調査内容	<p>登別市議会は、積極的に議会改革に取り組んでおり、早稲田大学マニフェスト研究所が行っている議会改革についての調査で、令和3年度は全国2位となった。</p> <p>本会議や委員会を誰でも自由に傍聴することが出来、バリアフリー化も進んでいるほか、議会フォーラムや議会サポーター制度により、幅広い世代から意見を聞くための機会を積極的につくっている。こうした取り組みが住民との敷居が低いと評価されている。さらに、重大な感染症蔓延防止や大規模災害時、育児、介護などを理由にオンラインで委員会に出席することを認めたり、議会事務局職員による議長への提案制度を導入するなど、先進的な取り組みが行われている。</p> <p>このような登別市議会の議会改革の取り組みを調査した。</p>
主な質疑	<p>(問) オンライン委員会は実際にどのようなタイミングや理由で利用されたのか。</p> <p>(答) 新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者となったため、育児のためという理由などで利用されている。育児のために利用した経緯としては、委員会のスケジュールが急遽決まり、子どもを預けることができないためオンラインで参加したものである。</p> <p>(問) 議会事務局職員提案制度の導入で、議会事務局の仕事量は増えているか。</p> <p>(答) 実際に仕事量は増えているが、議員の方々の思いが市民に伝わるということで、事務局職員としては全力を尽くしていくという気持ちで取り組んでいる。</p> <p>(問) 初当選議員の研修費用は政務活動費ではなく、別に予算を取っているのか。</p> <p>(答) 政務活動費とは別に研修用の予算を取っている。</p> <p>(問) 議会改革調査で全国2位となったことへの分析はどうか。</p> <p>(答) 「多様性のある議会」というテーマや若い方々への主権者教育に取り組み始めていること等が高評価に繋がったと認識している。加えて、アンケートの自由記載欄等についても、議会事務局任せにせず、議論した上で回答を作成した点も評価に繋がったと考えている。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	<p>若手や政治未経験者、女性など、幅広い議員が活動できるような仕組みづくり、ひいては「多様性のある議会の実現」のためにどういうふうに寄与できるかという議会改革への思いを現登別市議会議長の辻弘之議長から直接、説明をいただき、経緯や現状についても伺うことができた。</p> <p>登別市議会は、全国の議会の中でも特に先進的な取り組みが行われており、当区も、より開かれた議会を目指し、今後の参考にして参りたい。</p>